

会 議 名	第4回 狭山市協働のまちづくり条例（仮称）市民検討委員会
開 催 日 時	平成30年2月21日(水) 午後6時40分～午後8時00分
会 場	狭山市役所 7階研修室
出 席 者	狭山市協働のまちづくり条例（仮称）市民検討委員 10名 （欠席10名）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. あいさつ 3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）前回の委員会の振り返り （2）「狭山についての意見や考え方シート」について （3）今後の予定 （4）その他 4. 閉 会
協議概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）前回の委員会のふりかえり <p>○小山委員長</p> <p>前回の委員会では、「まちづくり」とは何かについて話しをさせていただいた。「まちづくり」とは抽象的な言葉だが、より良い地域をつくるためには欠かせないものだ。</p>

私は、地域の課題を解決するために努力することが「まちづくり」なのではないかと感じている。

今までは、10年・20年先まで住み続けるという概念がなかったように思う。これからは、住み続けるということを前提に条例を作っていかなければならないのではないだろうか。

「まちづくり」あるいは「まちを作り変える」ということはなぜ必要なのか？

それは、人口減少や高齢化など、社会構造が変化するなか、住み続けることができる地域にするためには、「自分たちで地域の課題を解決していかなければならない」という責任と意義を持つことが、根幹にあるのではないか。

協働のまちづくりに魂を入れる。まちづくりを進めると言葉にするだけではなく、進めていくためにはどうしたらよいか考えていかなければならない。

狭山市では、ガイドラインにより協働の手段や進め方を可視化することでまちづくりを進めてきた。条例では、「協働」という理念について、更に見える（認識できる）形としていく。

様々な分野、年齢層から構成されるこの委員会の意見が条例づくりのヒントとなり、狭山らしさが生まれる。そのため、多くの意見をいただきたい。

2020年の東京オリンピックでは、開催することだけではなく、後世に何を残せるか（レガシー）を考えることが重要視されている。協働によるまちづくり条例についても、条例制定後に何を残せるか考えていく必要がある。

(2)「狭山についての意見や考え方シート」について

(資料：「狭山についての意見・考え方シート」取りまとめ参照)

(委員A)

居心地がよく人が優しい場所だと気付かせていくこと、つないでいくことが重要だと思う。狭山は居心地がいいまちで人に優しい。そこをアピールするのがいいのでは。

○小山委員長

人が優しいという意見があったが、どのようなところで優しさを感じるがあったか。

→（委員B）

市外から転入してきたが、優しく受け入れてもらえた感じがした。

「大丈夫？」と言い合えるような関係を築くことができた。自治会レベルや隣の人ともこういった関係を築いていければと思う。

（委員C）

地域について関心を持ち、意見を言える人が多い。狭山市の良さ、豊かさを言い合う場を作っていきたい。狭山市は、働く場所もあり、都心に近い。狭山市の魅力を磨きあげたり、顕在化させていくことがまちづくりにつながる。

（委員D）

狭山茶の産地ということは大きく自慢できると思う。オリンピックの時期には、夏のため、お茶を使ったおもてなしができると思う。狭山茶をPRするチャンスである。

他市の条例はどのようなものなのか？

→所沢市では、理念条例をなぞ掛けのように遊び心を持って説明し、親しみやすく工夫して書かれている。

（委員E）

狭山茶のPRが足りない。魅力的なまちを発信するためには、大きなことをしなければ変わらないと思う。また、意見を行動に結びつけられていない。

（委員F）

仕事の関係で8年ほど狭山を離れたが、その時に狭山市の良さを感じた。人が優しく時間の流れがゆっくりである。そのような良さを仕事の関係で転入してくる人にPRしている。病院の職員も半分以上が市外から転入している。

（委員G）

来年はラグビーワールドカップが開催されるが、熊谷市ではこのことについてまちを挙げてPRしている。また、市職員のイメージが市

	<p>のイメージに直結するので、来庁された方へは、優しく丁寧な対応をするよう注意してほしい。(かつて職員の苦情を聞いたことがあるので)</p> <p>(委員H)</p> <p>市を挙げて、狭山市として推していけるものを考えていきたい。</p> <p>自分は浜松の出身で、子供時代に祭りに参加した体験が故郷の想いにつながる。狭山市にもそういったものがあれば。</p> <p>(委員I)</p> <p>狭山市のイメージに繋がるようなものがない(お店、風景など)。課題に対して後追いのまちづくりになっている。魅力的なものはあるが、一貫性がない。</p> <p>子どもには小さい頃から狭山茶を飲ませ愛着を持たせたい。(入間市の学校ではお茶を授業に取り入れていることから)</p> <p>(3) 今後の予定</p> <p>(資料：平成29年度以降「協働のまちづくり条例(仮称)」の制定にむけたタイムスケジュール(案))</p> <p>(4) その他</p> <p>4. 閉会</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「狭山についての意見・考え方シート」取りまとめ ・平成29年度以降「協働のまちづくり条例(仮称)」の制定に向けたタイムスケジュール
事務局	協働自治推進課 課長・主幹・主査・主事補 以上4名